

# 令和5年度 北九州市立広徳小学校 学校経営方針

令和5年4月1日

北九州市立広徳小学校 校長 土田 成夫

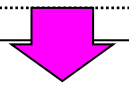
## ◇子どもの実態

- 明るく元気で人懐っこい子どもたちであるが、様々な課題を抱えている児童もいる。(家庭環境・人間関係・学力・発達障害など)
- あいさつはできる。子ども同士の人間関係も概ねよく、全体的に落ち着いている。が、精神的なもろさも併せもつ。不登校傾向の児童もいる。
- 学力・体力は、市平均を下回る。家庭学習時間が短く、就寝時刻が遅いなど、生活習慣に課題がある児童もいる。
- 地域は協力的で、地域のまつりなどへの児童の参加も多い。
- 家庭生活や生活リズムの乱れが多くの子に見られている。不登校傾向、不安傾向・ネット依存が増加。
- 児童数**371**人 通常学級**12**(**13**)学級 特別支援学級**4**学級(自閉情緒**2**, 知的**2**) 特別支援教室**4**(通級教室)

## ◇めざす教師像

### ※ 子どものことを一番に考え、行動できる教職員集団

- 豊かな人権感覚をもち、子どもに温かい言葉をかける教師
- 子どもとよく遊び、ともに汗を流し、きびきびと行動する教師
- 子どもの力を伸ばすために日々の授業を大切にしている教師
- 自分の家庭や家族を大切にしている教師



## 「チーム広徳」の信頼と結束

- ① お互いを思いやり、明るく元気な職場で、心をつなげて、よりよい仕事をしよう。ワークライフバランスの充実
- ② 「時を守り、場を清め、礼をつくす」 **業務改善**
- ③ 一人で抱え込ませない。

## ○学校教育目標達成のための具体的な方策Ⅰ

- (1) 教職員相互の協働体制のもとで学校の教育力を高める子どもの育ちを多面的に組織的に支援する協働体制
- (2) 自己実現を目指す豊かな生徒指導の推進
  - ① 共感的な児童理解を基盤に据えた学年・学級経営の充実・・・「学年担任」「近接学年チーム」の推進
  - ② 生徒指導主任を中核にした生徒指導体制を生かした行動連携と、落ち着いた学校生活の生み出し・・・「教師同士がなんでも相談し合える職員室に」・・・「チーム広徳」の信頼と結束  
**◆水曜日・金曜日終礼時に生徒指導報告**  
**※「ん？」と感じる教師の直感を大切にしよう。**  
**※まず出欠の確実な把握、報・連・相そして確認**  
**・結果の記録、怠学・不登校の未然防止**  
**※「指導する先生」と「見過ごす先生」がないようにしよう。**生徒指導のスタンダード化、同じベクトル
- (3) 豊かな体験を通し、自己の生き方についての考えを深める道徳教育の充実 ～道徳科の確実な実施～

## ◇ 学校教育目標とめざす子ども像 ◇

豊かな心をもち、相手を思いやり、ともに『生きる力』を身に付ける児童の育成  
 ～「夢・情熱・笑顔」を携え 心つなく広徳っ子～

- はげむ子(徳) 豊かな心をもち、自分や友達のよさを認め、ともにはげむ子ども
- のびる子(体) 心と体をきたえ、たくましく伸びようとする子ども
- すすむ子(知) すすんで学習し、よりよい自己を求めてやまない子ども

## 【めざす子どもの重点】

- すすんであいさつし、あたたかい言葉を使う姿
  - ・ すすんであいさつし、「ありがとう」という感謝の心をもって、一つ一つの活動を通して、仲間や先生と確かな絆で「つながる」
- すすんで世のため人のために働いたり、だれとでもなかよく遊んだりする姿
  - ・ 黙って掃除・整理整頓 「もくもくそうじ」の徹底 奉仕的な活動の充実 「奉仕のこころと感謝の心でつながる」
- すすんで学び、自分の気持ちや考えを相手にわかりやすくまとめたり、伝えたりして、学習や生活の中で高め合う姿
  - ・ 感染予防に努めながら、主体的で対話的で深い学びを目指し、アクティブラーナーとしての基礎を培う学習活動を行う。 **※「自学力」の育成 →家庭学習の取組のシステム化**
- すすんで運動し、自分の健康や安全を創り出していこうとする姿
  - ・ 健康や安全に対して自分で考え、行動できる力、すすんで運動に取り組む。

## <令和5年度の重点目標>

### ★ 確かな学力の向上を図るとともに、心の教育を大切に生きる力を育む開かれた学校★

#### (1) 温かい人間関係(教職員集団)の中で教育活動を行う学校

教育活動は、全教職員が課題に対して共通理解を図りながら取り組まなければならない。自分の学級の子もだけでなく、どの子どもにも目を向け、全教職員で見守り自己実現させていく。そのためには、お互いに理解し合い、思いやりのある温かい人間関係の中で、教育活動や研修のできる学校にする。

#### (2) 一人一人の子どものために働いている学校

子どもは、教師を選べないことを全教職員はしっかり認識し、「子どものために」を第一に考え、一人一人の子どもの充実感や満足感を得られる学校にする。子どもが喜んで登校し、安心・安全に生活し、意欲的に学習することで、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることのできる学校にする。そのためには、指導すべきことは適切に指導する。一人一人の子どもが、かけがえのない一人の人間として大切にされ、存在感を実感でき、自己実現できる学校にする。

#### (3) 子どもが「わかる」・「できる」を実感する指導法を求めて、教師が日々研鑽する学校

子どもは「わかる」・「できる」授業を求めている。教師は、子どもの願いを実現していく専門職である。専門職としての自覚と使命感をもち、常に研究と修養に努め、一步一步前進する。教師としての力量を高めることは、子どもや保護者、地域の信頼と期待に応えることである。

#### (4) 学校の教育目標達成に向け、組織として機能する学校

個々の教師の指導力やモチベーションが十分発揮されるとともに、組織として結集されなければならない。結集点は「学校教育目標」である。心情的な和を基盤として、学校教育目標達成に向かって、研究的かつ生産的な実践のできる学校にする。

#### (5) 家庭や地域、各関係諸機関との連携・協力を深め、教育効果を高める学校

## ◇めざす学校像

- (1) **子どもが主役となる明るく楽しい学校**  
特別支援教育の充実 授業のユニバーサルデザイン化
- (2) **子どもが行き(生き)がいのある学校**  
規律と思いやりのある学校、学校行事など特別活動の充実
- (3) **確かな信頼で結ばれた学校**  
子ども相互、子どもと教師、教職員間、学校と保護者地域、小中の連携(広徳中、徳力小)
- (4) **保護者や地域に開かれた学校**  
安全で安心してすごせる美しい学校 →通わせたい学校に
- (5) **研究・研修を通し教師集団が学び合う学校**  
「一時間一時間の授業の中に教育のすべてがある」という共通の基盤の上に立ち、「確かな信頼」で結ばれた「活力」ある学校  
**※ 当たり前前ことを当たり前前のできる子ども**  
**◇ 子どもが「この学校で学びたい！」保護者や地域の人が「この学校に行かせたい！」教職員が「この学校で働きたい！」と思う学校に！**

## ○学校教育目標達成のための具体的な方策Ⅱ

- (4) **知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスのとれた学習指導の推進**
  - ① 基本的な学習規律の確立・・・学びの基盤となる「根っこ力」を学校全体ではぐくむ。
  - ② 基礎的・基本的な知識技能を習得させるとともにそれを活用して思考力・判断力・表現力を育てる「わかる授業づくり」に取り組む。
- (5) **あらゆる教育活動を通した人権教育の推進**
  - 配慮の必要な児童について、職員間で共通理解する機会を設定する。関係機関との連携を図る。
  - 教職員の人権感覚を磨く研修を計画的に実施。
- (6) **実践的な指導力を高める校内研修の推進**
  - 主体的で対話的で深い学びの実現のために、相互の授業公開や持ち合い授業を中核とした「日常的な授業改善の取り組みの充実」
  - 子どもつながりプログラムなどで、「つながる力」を育成するため、人間関係づくりや学級集団づくりの充実を図る。
  - 全員で支える新採研修、若年研修・・・互いに学びあう教師集団、磨きあう教師集団として ボトムアップ型の研修体制の構築。
- (7) **感染症対策の徹底により、子どもの健康・安全の確保に対する対応策の強化**
  - 子どもの生きる力を育む食育の充実 安全・安心な学校給食(感染対策、アレルギー対応)
  - 保護者・地域と連携した健康・安全指導
  - 緊急連絡メールシステムの運用と活用
- (8) **保護者・地域・関係機関との連携 積極的な情報発信**
- (9) **潤いとやすらぎのある教育環境づくりの推進** ごみひとつに心を配る子どもに